



検証、そして質の深まりへ

小中一貫教育係 嘱託指導主事 樋口孝義

今年度の取組評価（児童生徒、教職員及び保護者）を来年の中学校区小中一貫教育グランドデザインや各学校教育計画に活かしてもらいたいと願い、時期を早めて12月に実施しました。学期末のお忙しい中、確実に取り組んでいただき感謝します。1月からの統括コーディネーター面談や市教委訪問で結果分析の概要について話題提供してきました。また、1月の校長会でも中学校区ごとに分かれ、細部の資料に基づいて課題と方策について協議していただきました。どの場面でも十日町市あるいは各中学校区の「めざす子どもの姿」を念頭においていただき、有意義な話し合いができました。

各学校から提出いただいた貴重なデータを無駄にしないよう、市教委はあらゆる角度からの表やグラフを作成し、必要に応じてクロス集計等も考慮しながら分析を行いました。全体的な考察は次ページに掲載しますので参考にしてください。幾つかの特徴的な結果も出てきていますので、そのことについて記述します。

＜肯定的な評価が9割を超えるような項目に関して＞

統計のマジックと言われるものの中に、「高い数値」や「幾つかのまとまりでの数値」があります。この数値を鵜呑みにしてしまうと奥深く潜んでいる実態や課題を見逃してしまうことがあります。このようなものに対しては「強い肯定」「学校別」「学年別」などの切り口から再度、表やグラフにして考察することが必要になります。特に「強い肯定」でなく「弱い肯定」の割合が高いのは、控えめな日本人という捉えでは正しい考察ができません。なぜ強い肯定にならないのかの分析こそが取組に対する質の深まりにつながっていきます。

＜評価を経年で見ることに関して＞

学校は年度ごとに取組を大幅に変更するわけではありません。基本的には3～5年の大きな柱立てがあるのではないかと思います。それらの取組の是非も含めて、同項目の評価を経年で見ることが重要になります。肯定的評価がどう変化しているかとともに、肯定でない数値の変化にも注目する必要があります。例えば、小さな二極化現象が起こることがあります。このとき、肯定でない評価者がどんな思いでその取組や活動をしているのかを把握することが重要になります。そして課題があればその方策を練ることが質の深まりにつながります。

＜落ち込んでいる評価と具体的試みに関して＞

評価項目の中には、なかなか数値が高まらないものもあります。学校評価における組織マネジメントの考え方と同様にめざす姿と実態のギャップを洗い出し、課題解決のための焦点化した方策をどのように9年間の「心の教育」「キャリア教育」に当てはめていくかが重要になります。いわゆる年度ごとの部分修正と言われるものです。この小さなPDCAの繰り返しが大きな改善につながり、質的な深まりに結び付いていきます。

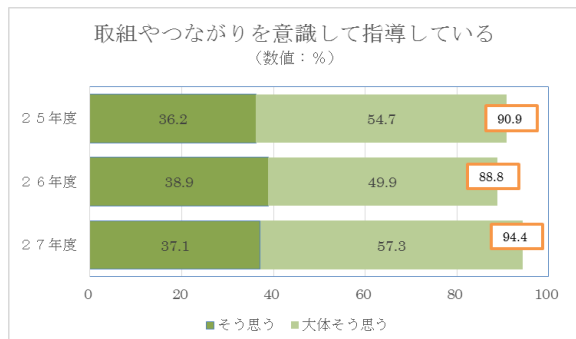
次年度は本格実施して3年目になります。部分修正だけでなく、3年間の取組を検証し、「3つの指導計画」の大幅見直しを図る必要があります。各中学校区における9年間の系統的な指導計画づくりの支援ができればと考えています。



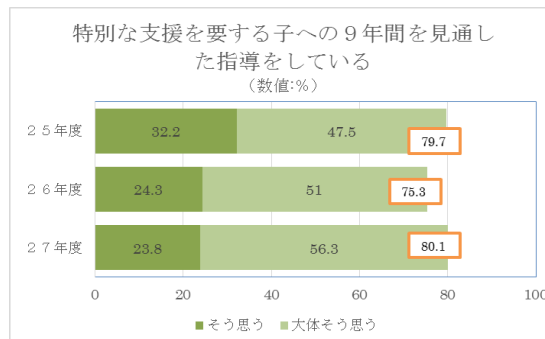
■ 小中一貫教育取組評価アンケート集計結果(その2)

前号で、「児童・生徒」の集計結果をお知らせしました。今号では、「教職員・保護者」の集計結果をお知らせするとともに、それぞれ「総括した評価考察」を掲載します。

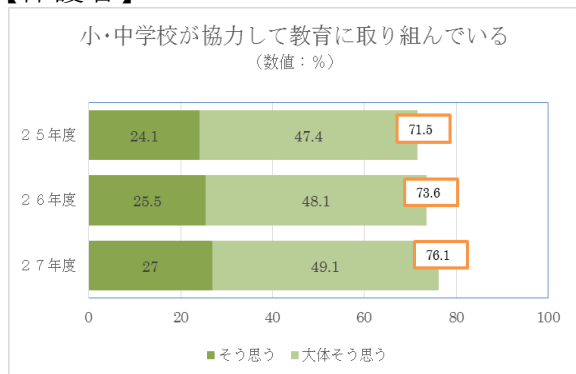
【教職員】



【教職員】



【保護者】



実施期間	平成27年12月		
教職員	回答数	429人	回答率99.1%
保護者	回答数	3,783人	回答率94.5%



【平成27年度小中一貫教育取組評価アンケート全体考察】※基準年度：H25年度取組評価結果

1 児童生徒

9割以上の児童生徒は「1 学校は楽しい」、「2 友達に会うのは楽しい」、「3 学校で好きな授業がある」、「5 住む地域や十日町市が好き」と感じている。また、「6 学校の授業以外の学習に取り組む」児童生徒は年々増加し、25年度比5.6ポイント増の85.4%となり、小中共に改善が見られる。一方、昨年度同様、「7 将来の夢や目標を持っている」と感じている児童生徒は8割、「4 自分にはよいところがある」と感じている児童生徒は7割台のまま、特に顕著な改善は見られなかった。将来に向けての活動意欲が高まる9年間を見通したキャリア教育、自尊感情を高め自己有用感が持てる取組等が必要である。6年生では、中学校への入学に対して楽しみにしている児童は9割を超えている。反面、少数ではあるが楽しみでない児童に対する個別支援が必要である。

2 教職員

「小中学校のつながりを意識して指導している」の肯定的評価は9割を超え、ほとんどの教職員が一貫教育を意識して教育活動を行っている。また、「特別な支援を要する子について、9年間を見通した支援を進めている」の肯定的評価も8割を超えたが、強い肯定が年々減少しているのが気になる。小中一貫教育を実施し、改めて9年間を見通した支援の困難さを実感しているのではないかな。各中学校区で実態に応じた研修や支援の具体的な取組、情報共有できる9ヶ年の「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の活用、保育園・地域との連携等が必要である。

3 保護者

肯定的評価は年々増加傾向にあり、7割以上の保護者は「小・中学校が協力して取り組んでいる」と感じている。しかし、同じ中学校区でも小中や学校間で評価にばらつきがある。中学校区で配信している「小中一貫教育だより」を利用した保護者への啓発、推進会議や各種教育活動で地域を巻き込んだ取組が重要である。

※ 肯定的評価＝「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」、強い肯定＝「そう思う」

■ 統括コーディネーターとして1年間を振り返って



子どもたちの将来と地域の未来と小中一貫教育

松代中学校区統括コーディネーター 太島 誠

1 小学校 1 中学校体制となり、2 年目となりました。保育園・小学校・中学校・松代高校の連携組織「松代地区教育振興会」をベースにした、小中一貫教育の取組も、これまで以上にフットワークよく進めることができました。

特に、授業改善を目的とした中学校区の研修の成果は、各種学力調査の数値で、中学校での落ち込みが小さくなったところに現れました。これは「健やかな体」「確かな学力」「しなやかな心」「地域への誇り」をテーマとした4つの委員会の取組が、昨年度の実践をもとにさらに深まりや広がりを見せ、小中一貫した指導や支援ができてきた成果であると考えています。

今年度は、映画「夢は牛のお医者さん」の丸山知美さん（昶平出身）をお招きして、「“ようこそ先輩”小中合同講演会」を開催しました。このことは、子どもたちがこの過疎化の進む松代地区の実態を踏まえ、地域の未来とともに自身の将来を考える良い機会となりました。また、松代中学校区に勤務する教職員にとっても、キャリア教育の視点で小中一貫教育の必要性を強く感じさせる機会となりました。

子どもたちの将来と地域の未来のために、継続した一貫教育の推進を目指し、工夫改善を続け、来年度への教育活動につなげていきます。



今年度の取組の成果、課題と今後の方向

下条中学校区統括コーディネーター 庭山 敦

当中学校区は小中学校一貫教育モデル事業の指定を含め、今年度で5年の取組を終了します。

今年度の取組の成果として、「学力向上」では、学習習慣の確立に向け、児童生徒が見通しをもって学習に取り組む力が身に付いたことです。小学校では共通取組事項を入れた学習カードを使用し、中学校では生活ノートを日々の学習の振り返りと家庭学習の計画を記入できるものに変更したことが大きな要因です。また、小中職員の情報交換により生徒の個別の学力実態把握を入学前に行うことで中学校では個別指導が容易になっています。

「人間関係づくり」では、小中交流活動において、昨年度から交流学年を絞ることにより、異年齢集団によるより強い関わり合いとすることができ、互いの差異を認め、尊重し合う心が育っています。児童・生徒の活動に対する取組もより積極的になってきました。また、小中職員が情報交換を随時行うことで、児童・生徒の状況に応じた適切な支援を行うことが可能となっています。

今年度の課題と今後の方向ですが、小中一貫教育で取り組んだ内容についての成果は認められます。しかし、新たな取組を加えることにより、児童・生徒、職員の負担が増えることが懸念されます。

今後は、小中職員でこれまでの取組を検証し継続する取組を精選するとともに、既存の教育活動を生かした取組も検討していきます。さらに、これまで作成してきた「心の教育指導計画」、「キャリア教育計画」もより実効性のあるものにするため修正を加えていきます。



大きな連帯感のもとに

拡大中学校区統括コーディネーター 田村 晃夫

拡大中学校区は、児童生徒数 1000 名、教職員数も 100 名を超える市内最大の中学校区です。6 つの小中学校があるため、これまで「ゆるやかな連携」をとりながら活動に取り組んできました。

今年度は、夏の小中一貫教育研修会で、拡大の全職員が意見交換する場を設け、9 か年を見通した教育を進める研修を行いました。分科会形式で、「授業における、不登校減少に向けた取組の工夫」をテーマに、グループに分かれてファシリテーションを行いました。小中一貫教育の視野から「不登校児童生徒の減少を目指し、不登校を生まない意識を日頃から醸成する方法」、授業における児童生徒の「自己有用感」を高める取組や「人間関係づくりの能力」を高める取組、「他者と協力して課題に向かう力」を高める方法について考えました。

職員交流会以外で、拡大学区全職員が研修を目的に一堂に集い、一つのテーマで共に協議できたことは、これが初めてでありました。大きな連帯感を得る機会となり、今後の小中間の連携を深めるステップとなりました。



【8月7日の中学校区合同発表会兼教職員研修会】



川西中学校区の小中一貫教育のこれから

川西中学校区統括コーディネーター 高野 昭一

当中学校区は、「自分に自信をもち、仲間と協力する川西っ子」をめざす子どもの姿に位置付け、小中の教員が『チームかわにし』の人づくり教育」というスローガンのもと、教育活動に取り組んでいます。具体的には、3 年間のモデル中学校区として取り組んでいたものを、年々、膨らませたり、スリム化したりしながら活動を整理してきました。

統括コーディネーターとして当中学校区の小中一貫教育を振り返ると、よい点は3点あると感じています。

- ①「か」「わ」「に」「し」の頭文字を使った教育活動の整理
- ②小中の教員が同じ目線で子どもの成長を図ろうという意識
- ③小中間でのきめ細かな情報交換

上記の取組により、中1ギャップは相当緩和されたのではないかと思います。

一方、改善点も3点あると感じています。

- ①小中学校だけでなく、他の学校や地域と一体となった教育活動の組織
- ②学力向上のためのより具体的な手立ての構築
- ③主担当だけでなく、全職員の意識の共有化をより一層図ること

特に、①②と関連して、キャリア教育の視点から小中学校の教育活動を整理して、系統性のあるものにしていきたいと考えています。

教育センターから

十日町市の学校教育「実践報告集第11集」

十日町市教育委員会、十日町市教育振興会では「平成27年度の十日町市立学校及び中学校区の取組、教育研究等の内容の成果と課題を明確に記録し、十日町市の学校教育の振興を図る」ことを目的として、「十日町市の学校教育『実践報告集第11集』」を作成しています。

主な内容は以下のとおりです。

- 教育長あいさつ、市教育振興会会長巻頭言
- 十日町市教育委員会の今年度の取組と課題
- 小中一貫教育の取組報告（市教委、中学校区）
- 各校の取組と課題
- 指定研究発表会の実践報告
- 各校の表彰の記録



今年度の十日町市の学校教育の集大成となります。3月下旬には各学校に配付されることになります。自校の取組はもちろんですが、市教育委員会や他校の取組もぜひご覧いただき、十日町市の学校教育への理解を深め、平成28年度の取組の方向性を明確にしましょう。

生徒指導コラム

子どものインターネットの安全利用のための取組を行っています。

- 1 事業名 子どものインターネット安全対策事業
- 2 概要 ネット社会が、子どもの健全育成に悪影響を及ぼすことが懸念され、その対応として生徒自らがネット社会との関わり方について考える授業を実施しています。生徒一人一人が、正しい知識と意識を身に付けるため、ワークショップを通して行います。
- 3 実施時期・会場 平成27年度～平成29年度 市内各中学校を会場に1年生が実施
- 4 成果と課題（1年次の主な成果と課題）
 - （1）成果
 - ・ 委託業者から専門的・具体的に指導してもらった。そのためネットを利用する際の危険性について生徒に十分に意識させることができた。また、実際にスマートフォンに迷惑メールを着信する等体験できたことで、より身近な問題として認識できた。
 - ・ 今回の授業を通して、「ルール必要性」「ルールを守る大切さ」を認識した生徒は98%である。
 - ・ ワークショップでの話し合い活動が有効に働き、「自分の意見を述べることができた」、「友達の意見を聞き参考になった」という生徒が多かった。
 - （2）課題
 - ・ 生徒自身の作成したルールが守れるよう、家庭への働きかけや、学年が上がっても意識させる工夫が重要である。
 - ・ 本事業と、学校におけるいじめ防止の取組、道徳の授業との関連も図ることが大切である。
- 5 リーフレットの作成
今年度の取組をまとめたものをリーフレットにし、3月中に配付いたします。

中学校区の取組紹介（２月～３月）

中学校区名	2月の取組	3月の予定
拡大中学校区 	■ 2月9日（火）中学校区計画訪問 会場；十日町中学校	☐ 新入生小中引継会 3月9日（水）十小―十中 3月10日（木）中条小―中条中 3月11日（金）東小―十中、 東小―中条中 3月15日（火）飛一小中条中
南 中学校区	■ 2月8日（月）中学校区計画訪問 会場；川治小学校 ■ 2月25日（木）コーディネーター会議 次年度の活動計画の確認 	☐ 3月11日（金）小中連絡会 ☐ 3月14日（月）英語出前授業川治小 ☐ 3月16日（水）英語出前授業西小 ☐ 3月16日（水）南中学校区教職員協議会教育推進会議 16:00～南中 ☐ 3月中；南中学校区小中一貫だより No.6の発行
吉田中学校区	■ 継続的にスキー部活動の交流会を実施。小学校のスキー大会に併せて交流したり、小学生の大会の前走等で、中学生が協力したりした。	☐ 特記事項なし 
下条中学校区	■ 2月2日（火）中学校区計画訪問 会場；下条中学校 ■ 2月5日（金）新入生体験入学 保護者の入学説明会と児童制服採寸	☐ 3月9日（水）新入生体験入学 8:20～13:10 授業・給食体験
水沢中学校区	■ 2月1日（月）～5日 第3回元気アップ週間	☐ 3月4日（金）第4回進学指導委員会 16:00～水沢中 ☐ 3月16日（水）教頭・教務合同会議 16:00～水沢中
川西中学校区 	■ 2月3日（水）心の育成部会、体の育成部会 ■ 2月5日（金）中学校区計画訪問 ■ 2月8日（月）小中一貫教育拡大推進委員会 ■ 2月16日（火）特別支援教育部会 ■ 2月17日（水）乗り入れ合唱指導（上野小①） ■ 2月23日（火）乗り入れ合唱指導（橘小） ■ 2月29日（月）乗り入れ合唱指導（上野小②）	☐ 3月7日（月）1日異校種体験研修 中学校教諭（数学）→小学校
中里中学校区 	■ 2月2日（火）中里地区校長会、企画委員会 ■ 2月4日（木）～7日（日）第50回なかさと交流 歓迎会、学校交流、家庭交流、スキー体験など ■ 2月16日（火）中学校区計画訪問（中里支所）	☐ 3月15日（火）中里地区校長・教頭 会 
松代中学校区 	■ 2月2日（火）中学校区計画訪問 会場；松代中学校 ■ 2月12日（金）中学校入学体験、児童と生徒の 交流活動 ■ 2月18日（木）中学校教諭による英語出前授業	☐ 3月16日（水）小中引継会 ☐ 3月23日（水）小中一貫教育だより「まつだいの子」発行
松之山中学校区 	■ 2月3日（水）入学児童と中学生の交流活動 ①中学校紹介（映像と解説） ②体験授業（英語、理科） ③交流活動（レクリエーション）	☐ 1月～3月の継続的取組 小中学校全職員で「総合的な学習の時間」のカリキュラムづくり

2月から3月にかけて各中学校は修学旅行を実施します。